

熊本学園大学 外国語学部 第19号

英米学科 GAZETTE

令和2年8月
発行・編集
熊本学園大学 外国語学部

巻頭言

堀 正広(教授/英語学・文体論・コーパス言語学)

新型コロナウイルス感染症による経済活動の自粛は、国民に重い負担を課した。文化の面においても、コンサート・演劇などの文化芸術活動は、以前のような活動は望めない状態である。また、私たち人文系の大学教員の学会活動もまた少なからず影響を受けた。コロナ禍の間、私が所属している学会は全て中止となった。ある学会で基調講演を依頼されていたが、講演中止のお詫びのメールが届いた。科学研究費による国際学会でのシンポジウムも中止となった。学会講演は、論文執筆や学術書出版の大きな牽引力となる。国

際学会での発表は、自分たちの研究が国際的に通用することの自信を与えてくれる。しかし、このような機会はしばらくない。こんなとき思い出されるのは、1950年に英語に関する研究の分野で、初めて学士院賞を受賞された山本忠雄博士の研究姿勢だ。戦災に会い、自宅の研究資料は全て消失しても、戦前とおなじように戦中戦後と一貫して教育と研究に邁進された。優れた先人の生き方は、コロナ禍の時代においても、消えることのない灯火であるとあらためて思う。

研究紹介

江戸時代における『和漢朗詠集』の受容

村上 義明(准教授/日本近世文学)

私は、現在、江戸時代における『和漢朗詠集』(以下「朗詠集」)の受容を研究の柱としています。

朗詠集は、中国詩文・日本漢詩・和歌のアンソロジーで、平安時代を代表する文人の藤原公任によって編まれました。本書は成立以来、たとえば書道の手本や詩歌を詠作するための和漢の基礎教養書として現代に至るまで長く享受されてきました。その日本文化に与えた影響は決して小さくはありません。

この古典籍は、平安時代の成立であったこともあり、それからずいぶん後の時代である江戸時代以降の受容については、まだまだ明らかでない部分が数多く残されています。そこで、これまでは主に江戸時代に刊行された朗詠集の注釈書に注目してきました。注釈書とは、簡単にいえば古文の語彙や文意を解説した本のことです。注釈は、当時の人々が古典籍のテキストをどのように読んだのかを知るうえでとても重要なものです。

さまざまな注釈者(北村季吟、岡西惟中、高井蘭山、山崎美成など)が、どのような注釈を付したのか、また各注釈書の出版に関わった書肆(本屋)のこと、そして、注釈書を享受した読者のことなど、時代や文化を

考慮しつつ、さまざまな方面からアプローチして本書の受容を明らかにしたいと考えています。

上記の研究のほかに、各地で文庫調査を行っています。日本(のみならず世界)には、まだまだ未整理の和本が数多く残されています。それらを書誌学的に調査・発表することで、先人たちが遺した貴重な古典籍を広く知ってもらうとともに、後世に伝えていきたいと考えています。

また、これまで子ども達や留学生を対象として、くずし字(変体仮名)や和本についてのワークショップを行ってきました。今年度から研究の拠点が熊本に移りましたが、この機会に、いずれ、この地でもこうしたワークショップを開催したいと考えています。



江戸時代に刊行された『和漢朗詠集』

書籍紹介

ゲーテ『エグモント』(1787)

八木 昭臣(准教授/ドイツ文学)

ベートーヴェンの『エグモント序曲』の方がよく知られているかもしれません。

ゲーテは宗教改革時代の騎士を描いた歴史劇『鉄の手のゲッツ』(73)によって世に出ましたが、翌年には、オランダ独立の英雄『エグモント』の構想を始めています。しかし、完成までに長い年月を要したこの作品は『ゲッツ』のように熱狂的に受け入れられることはありませんでした。デモニッシュな生き方を貫くゲーテの『エグモント』は当時から難解だったのでしょう。

ところで、革命の指導者として処刑され、独立の象徴となったエグモントの姿は、シラーやベートーヴェンを刺激したようです。

『エグモント』完成の翌年、シラーはこの作品を激しく非難する論文を発表しました。同時期のシラーは、戯曲『ドン・カルロス』や、『オランダ独立史』をはじめ、関連する歴史研究を残しています。その後、ゲーテはドイツ古典主義の盟友となったシラーに『エグモント』の改作を依頼します。

有名な英雄交響曲から数年後のことです。ベートーヴェンはゲーテの作品に曲をつけていましたが、ゲーテと初対面の機会を得るために、『エグモント』上演のための一連の音楽を贈りました。

これらの出来事はフランス革命前後の時代の空気を感じさせます。シラー改作の上演は好評でした。ベートーヴェンの音楽はゲーテの5幕に合わせて作曲されていましたが、19世紀の間は、シラーの3幕や、それをベースとした改作がベートーヴェンの音楽とともに上演されていたようです。

学科最新ニュース

With COVID-19, all of our face to face classes were moved to remote learning. One of the biggest challenges for me was the 2nd year speaking class, which has the students speaking to me and to each other. Fortunately, for the past several years, we have been supplementing the classes with a website called English Central. English Central offers a wide range of videos for students to watch and study, and it asks students to repeat the lines of the video and, using computer technology, gives them feedback on their pronunciation, not only on a computer, but also on a smartphone or a tablet. In normal times, this website is an extra assignment, allowing students to do extensive speaking practice towards the end of the term and we have a special arrangement with the company for a 4 month academic membership, sold through the campus Maruzen branch, at the same price as a textbook.

For our distance classes, we assigned students weekly goals to make up for the lack of opportunities to speak. Making this a weekly requirement also encouraged students to develop regular study habits. When we return to regular classes, I hope that we can use what we have learned to give students more opportunities. If you are interested in checking out English Central, visit www.englishcentral.com for more information



Tomei, Joseph(教授/言語・E-ラーニング)

今年度、COVID-19感染拡大を防止するため、対面授業はすべて遠隔授業に移行しました。私の担当科目である2年次のスピーキング授業では、従来、学生たちが学生同士英語で会話をしていました。遠隔では状況が変わり、そのような環境ではありません。ただ、幸いなことに、ここ数年はEnglish Centralというウェブサイトで授業を補って来ました。English Centralは、ユーザーが様々なジャンルのビデオを視聴し、ビデオのセリフを繰り返し発音練習できるものです。さらに、音声認識技術により、正しい発音ができるようフィードバックしてくれます。使用できる端末はパソコンだけでなく、スマホやタブレットにも対応しています。通常、対面授業では、このサイトで行う発音練習は課外活動としてで、学期末に向けて広範囲のスピーキング練習を行う目的で使用します。本学ではEnglish Centralと、4ヶ月間のアカデミック会員契約をしており、アカデミック割引価格で会員券は、キャンパス丸善支店を通じて販売しています。価格は通常授業で使用する教科書と同程度となっています。

遠隔授業での話す機会の不足を補うために、English Centralを使用した学習に週単位の目標を設定して来ました。毎週の目標を設定することで、規則正しい学習習慣を身につけることができます。通常のクラスに戻ったときには、私たちが学んだことを活かして、学生にもっと多くの機会を与えられるようにしたいと思います。English Centralをチェックしてみたい方は www.englishcentral.com をご覧ください。



編集人 塩入 すみ(英米学科長)

〒862-8680 熊本市中央区大江2-5-1

TEL: 096-364-5161(代表) Mail: shioiri@kumagaku.ac.jp